



5月のほけんだより

平成27年 第174号



予防接種について

感染症と予防接種

子どもの病気で一番多いのは感染症です。感染症には風邪程度の軽いものから、命に関わる重篤なものまであります。予防接種をすることで、病気にならないようにしたり、かかっても重症化するのを防いだりすることができます。

最近、予防接種の種類が増え、子どもの感染症の重症化が減ってきました。

生ワクチンと不活化ワクチン

予防接種は生ワクチンと不活化ワクチンに大別されます。



生ワクチン：生きた病原体を弱めて作った予防接種。

生ワクチンは、体に軽く感染させ、免疫をつくるので、接種後しばらくしてその感染症の症状がみられることがあります。

(たとえば「おたふくかぜワクチン」なら耳下腺が腫れる^は症状がみられることがあります。)

不活化ワクチン：病原体を殺菌し、免疫をつくるために必要な成分だけを取りだして作った予防接種。実際にその感染症の症状がでることはありませんが、繰り返し接種する必要があります。

定期接種と任意接種



予防接種には国が積極的に推奨している定期接種と、希望者のみが受ける任意接種があります。定期接種は定められた期間内であれば費用はかかりません。

水痘ワクチンが定期接種になりました

平成26年10月より水痘ワクチンが定期接種になりました。

対象は1歳から3歳未満のお子さんで、3ヶ月以上の間隔（標準は6～12ヶ月）をあけて2回接種です。

1歳になりましたら早めの接種をお勧めします。





★予防接種はワクチンごとに接種する年齢や回数・間隔が違います。(下記参照)
かかりつけ医とよく相談し、適切な時期に予防接種を受けましょう。

★ 定期予防接種

: 接種可能な年齢(法定接種対象年齢)

: 望ましい接種年齢

()内は標準的な接種期間

ワクチン名	出生後	3か月	6か月	9か月	1歳	1歳半	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	
ヒブ※ (インフルエンザ菌b型)		①②③			④															
		(27日～56日間隔で3回)→(3回目終了後7か月～13か月までの間隔をおいて1回)																		
小児用肺炎球菌※		①②③			④															
		(27日以上の間隔で3回)→(生後12か月～15か月に至るまでの間に、3回目終了後60日以上の間隔をおいて1回)																		
4種混合(DPT-IPV) ジフテリア(D) 百日咳(P) 破傷風(T) 不活化ポリオ(IPV)		1期初回 ①②③				1期追加 ④														
		(20日～56日までの間隔で3回) (3回目終了後12か月～18か月までの間隔をおいて1回)																		
3種混合(DPT)		(注)原則として4種混合ワクチンを接種																		
不活化ポリオ(IPV)		過去に生ポリオ・不活化ポリオ・3種混合ワクチンを接種した人が、必要接種回数(4回)の不足回数を接種します。接種可能な年齢、望ましい接種年齢、標準的な接種期間は4種混合と同じです。																		
BCG(結核)		①																		
		1歳になる誕生日の前日まで (生後5か月～8か月)																		
麻しん風しん混合(MR)					1期 ①(1歳)					2期 ②										
		小学校就学前の1年間(5歳以上7歳未満)の児 [保育所・幼稚園では年長児]																		
麻しん(M) 風しん(R)		(注)原則としてMRワクチンを接種 麻しん、風しんのいずれか一方にかかったことのある人、あるいは特に単独ワクチンの接種を希望する人等は単独ワクチンを接種することもできます。接種可能な年齢、望ましい接種年齢、接種回数は麻しん風しん混合と同じです。																		
水痘(水ぼうそう)					①	②														
		(生後12か月～15か月) (1回目終了後6か月～12か月までの間隔をおいて1回)																		
日本脳炎					1期初回 ①②			1期追加 ③				2期 ④								
		(6日～28日までの間隔で2回)(3歳) (2回目終了後およそ1年後1回)(4歳) (9歳)																		
2種混合(DT)																			2期 ①(11歳)	
子宮頸がん予防(ヒトパピローマウイルス)		小学校6年生～高校1年生相当年齢の女子																		
		(注)現在、子宮頸がん予防ワクチンの接種を積極的にはお勧めしていません。																		

※ヒブと小児用肺炎球菌は、標準的な接種方法以外の年齢(月齢)で接種を開始する場合、接種回数・方法が異なります。

★ 任意予防接種

: 任意接種が可能な期間

B型肝炎		(4週間隔で2回、20～24週を経過した後に1回) ※母親がB型肝炎キャリア(保因者)の場合健康保険適用あり(生後2, 3, 5か月で計3回)。																			
ロタウイルス		(生後6週以降、4週以上の間隔で、計2回と計3回の2種類のワクチンがある。)																			
おたふくかぜ					(12か月以降1～2回) ★保育所など集団生活に入る子は早めに受けましょう。																
インフルエンザ					(生後6か月以降2～4週間隔で2回/毎年)															(年1回)	

平成27年4月1日現在

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>